

学校教育学専攻在籍院生研究活動状況一覽

2007年1月1日から2007年12月31日までの間に発表されたもので、本人より申告されたもののみを記載した。(但し、※は国外で発表・報告されたもの)

《教育内容方法学分野》

安藤福光 (カリキュラム)

〈研究・調査報告書〉

- ・「附属駒場中高卒業生による座談会の結果の概要」, 柿寫眞 (筑波大学附属駒場中・高等学校長)・平成18(2006)年度 筑波大学「教育プロジェクト支援経費」, 『2006年度 筑駒「リーダー形成」プロジェクト報告書』(筑波大学附属駒場中・高等学校), 2007年3月, 152頁, 13-18頁 (根津朋実・田中統治との共同執筆).
- ・「駒場卒業生座談会の記録」, 柿寫眞 (筑波大学附属駒場中・高等学校長)・平成18(2006)年度筑波大学「教育プロジェクト支援経費」, 『2006年度 筑駒「リーダー形成」プロジェクト報告書』(筑波大学附属駒場中・高等学校), 2007年3月, 152頁, 19頁-36頁.

〈学会発表〉

- ・「中高一貫校における才能教育とリーダー育成のためのカリキュラム開発研究(3)―卒業生へのグループ・インタビューの結果を中心に―」, 筑波大学教育学会第6回大会, 筑波大学附属駒場中・高等学校, 2007年3月17日 (平田知之・小林汎・宮崎章・井上正允・根津朋実・藤田晃之・田中統治との共同発表).
- ・「児童生徒の意識にみる小中一貫カリキュラムの成果と課題―複数の質問紙調査をもとに―」, 日本カリキュラム学会第18回大会, 埼玉大学, 2007年7月8日 (根津朋実との共同発表).

〈その他〉

- ・「2006年度筑駒中等教育研究会報告 科研費萌芽研究『中高一貫校における才

能教育とリーダー育成のためのカリキュラム開発研究』最終年度結果報告」, 筑波大学附属駒馬中・高等学校第2回校内研修会, 筑波大学附属駒馬中・高等学校, 2007年2月21日.

- ・「質問紙調査にみる興本扇学園の児童・生徒像—経年比較を手がかりに—」, あだち教育フォーラム2007—学びの連続性を考える—, 足立区役所庁舎ホール, 2007年3月24日(根津朋実との共同発表).
- ・「玉川学園K-12」, 2007一貫教育セミナー at Tamagawa・第4分科会『一貫教育実践校における取り組み—カリキュラムの「接続」を中心に—』, 玉川学園講堂, 2007年7月27日(久保登美夫・小原一仁との共同発表).

緩利 誠 (カリキュラム)

(論文)

- ・「脳科学と教育の間—カリキュラムへの応用方法を中心に—」(田中統治との共著), 『教育学研究』(日本教育学会)第74巻第2号, 2007年6月, 162-173頁.
- ・「脳科学の成果を子ども研究に応用するための課題—学校カリキュラムへの示唆を中心に—」, 『子ども社会研究』(日本子ども社会学会)第13号, 2007年6月, 72-83頁.

(学会発表)

- ・「JICA『派遣現職教員』支援のための課題—派遣隊員報告書の分析を通して—」(緒方真奈美, 坪田耕三, 田中統治との連名発表), 筑波大学教育学会, 筑波大学附属駒馬中・高等学校, 2007年3月17日.
- ・「異文化における『日本型』カリキュラム実践の経験—JICA『派遣現職教員』の事例分析を中心に—」(田中統治との連名発表), 日本カリキュラム学会, 埼玉大学, 2007年7月8日.

緒方真奈美 (カリキュラム)

(学会発表)

- ・「カリキュラム開発における『教師の暗黙知』に関する一考察」, 日本カリキュラム学会, 埼玉大学, 2007年7月8日.
- ・「JICA『派遣現職教員』支援のための課題—派遣隊員報告書の分析を通して—」

て一」(緩利誠・坪田耕三・田中統治との連名発表), 筑波教育学会, 筑波大学附属駒馬中・高等学校, 2007年3月17日.

早坂 淳 (教育方法学)

〈学会発表〉

- ・「学校秩序の成立機序—いわゆる「秩序問題」を手がかりに一」, 日本教育方法学会第43回大会, 京都大学, 2007年9月30日.

原口友輝 (道徳教育学)

〈論文〉

- ・「人権教育の指導方法に関する一考察—「歴史と私たち自身に向き合う」プログラムの検討を中心に—」, 『関東教育学会紀要』(関東教育学会) 第34号, 2007年10月, 63-74頁.
- ・「「歴史と私たち自身に向き合う」(Facing History and Ourselves)」プログラムに関する一考察—「人権実現のための能力」の育成の観点から—」, 『筑波大学道徳教育研究』(筑波大学道徳教育研究会) 第8号, 2007年3月, 41-53頁.

〈学会発表〉

- ・「人権教育の指導方法に関する一考察—「歴史と私たち自身に向き合う」(Facing History and Ourselves) プログラムの分析を通して—」, 日本教育方法学会題43回大会, 京都大学, 2007年9月30日.

板橋雅則 (道徳教育学)

〈論文〉

- ・「第四期国定修身書の編纂過程とその特質」『筑波大学道徳教育研究』(筑波大学道徳教育研究会) 第8号, 2007年3月, 57-68頁.
- ・「岩瀬六郎における『生活修身』の実践史的考察」『関東教育学会紀要』(関東教育学会) 第34号, 2007年10月, 1-12頁.

〈学会発表〉

- ・「1930年代における国定修身教科書の編纂とその授業構想」教育史学会, 四国学院大学, 2007年9月22日.

〈その他〉

- ・「図書紹介 辻野具成・塚野征 編著『新しい道德教育の進め方』」『筑波大学道德教育研究』（筑波大学道德教育研究会）第8号，2007年3月，93頁.

小林将太（道德教育学）

〈論文〉

- ・「いかにして学校の道德的雰囲気をもてるか—コールバーグ以後の研究動向の検討を通して—」，『筑波大学道德教育研究』（筑波大学道德教育研究会）第8号，2007年3月，69—81頁.
- ・「L. コールバーグのジャスト・コミュニティ・アプローチの発展的試み—F. K. オーザーによる道德的討議への着目を事例として—」，『関東教育学会紀要』（関東教育学会）第34号，2007年10月，27—37頁.

〈学会発表〉

- ・「道德的行為の動機づけにおける道德的自己の役割—A. ブラシの「自己モデル」とその道德教育への応用—」，関東教育学会第55回大会，茨城大学，2007年10月28日.

北村理佳（道德教育学）

〈論文〉

- ・「『心のノート 小学3・4年』の内容分析—名詞・代名詞の語数に着目して—」（緒方真奈美・吉田武男との共著）『筑波大学道德教育研究』（筑波大学道德教育研究会）第8号，2007年3月，83—91頁.

〈その他〉

- ・「図書紹介 中戸義雄・岡部美香編著『道德教育の可能性—その理論と実践—』」『筑波大学道德教育研究』（筑波大学道德教育研究会）第8号，2007年3月，95頁.

《教科教育学分野》

國分麻里（社会科教育学）

〈編著書〉

- ・日韓歴史教育研究会(日)韓日歴史教科書研究会(韓), 日韓歴史共通教材『日韓交流の歴史』, 総453頁, 2007年3月, 1版, 明石書店, 主に現代史担当(共同研究につき担当部分の抽出不可).

〈研究・調査報告書〉

- ・「東アジアを視野に入れた中学校近現代地域学習の内容構成—八重山群島の糖業を事例として—」, 『地域と教育—沖縄県小浜島—』第5号, 総112頁, 筑波大学大学院博士課程「社会科教育学演習Ⅰ」調査報告, 2006年12月, 27~42頁.

〈学会発表〉

- ・「植民地朝鮮における1930年前後の郷土教育論—『文教の朝鮮』『朝鮮の教育研究』の記事を手がかりにして—」, 日本社会科教育学会, 埼玉大学, 2007年10月7日.
- ・「韓国歴史教育における国史と地域史の関係—高校深化選択科目「東アジア史」の分析を通して—」中等社会科教育学会, 筑波大学, 2007年11月17日.

〈その他〉

- ・「植民地朝鮮における1930年前後の郷土教育—『文教の朝鮮』『朝鮮の教育研究』の雑誌記事を手がかりにして—」, 『日本社会科教育学会論文集録』3号, 日本社会科教育学会, 2007, 76~77頁.
- ・(翻訳) 이준희 「한일 교류의 역사의 세계사적 성격과 의의」, 李存熙 「『日韓交流の歴史』の世界史的 성격と意義」歴史教育研究会・歴史教科書研究会主催国際シンポジウム『歴史教育をめぐる日本と韓国の対話』資料集, 2007年6月16日, 江戸東京博物館, 10~18頁.

※「오창훈씨 의경에 대하여」 지정토론 『한국과 일본은 역사인식을 공유할 수 있을 것인가 —한일역사공동교재의 개발과 활용방안—』, 서울시립대학교의 주최 『한일 교류의 역사』 출간기념 국제학술 심포지움 자료집, 서울역사박물관, 2007年3月25日, 99~111頁. 「オチャンフン氏の意見に対して」指定討論 『韓国と日本は歴史認識を共有することができるか—日韓歴

史共通教材の開発と活用方案一』、『日韓交流の歴史』刊行記念国際学術シンポジウム資料集，ソウル歴史博物館。

大高 皇（社会科教育学）

〈学会発表〉

- ・「韓国コンジュ市における児童の行動圏と交通に対する関心の変化」，日本地理教育学会第57回，2007年。
- ・「ドイツ発生的教授学習論に基づく地理教育論の構築」，日本社会科教育学会第57回研究大会，2007年。

石田喜美（人文学科教育学）

〈論文〉

- ・「『読者コミュニティ』の構築—同人誌コミュニティについての語りの分析から—」，『読書科学』（日本読書学会）第50巻3・4号，2007年3月，pp. 94-104。
- ・「交流ノートにおける『読者』から『作者』への移行—水戸芸術館現代美術センター教育普及プログラム・高校生ウィーク2006「ちへい／cafe」における小学生の参加過程の分析—」，『読書科学』（日本読書学会）第50巻3・4号，2007年3月，pp. 118-133。

〈学会発表〉

- ・「メディア・リテラシー教育における学習者像の問題」，全国大学国語教育学会第112回宇都宮大会，宇都宮大学，2007年5月27日。
- ・「他者との相互行為を媒介とした『読者』から『作者』への移行—交流ノート「楽書掲示板」コーナーにおける相互行為の分析から—」，ISCAR 第1回国際アジア大会，武蔵工業大学，2007年9月7日。

八木雄一郎（人文学科教育学）

〈論文〉

- ・「国語と古文の境界線をめぐる対立—『尋常中学校教科細目調査報告』（1898（明治31）年）における上田万年と小中村義象—」，『国語科教育』（全国大学国語教育学会）第61集，2007年3月，pp. 27-34。

- ・「中学校教授要目の成立過程における文章観」, 『日本語と日本文学』(筑波大学国語国文学会) 第45号, 2007年8月, pp. 19-30.

〈学会発表〉

- ・「中学校教授要目改正(1911(明治44)年)における『国文学史』廃止の意味」, 第113回全国大学国語教育学会, 岡山大学, 2007年11月4日.

田中耕司(人文学科教育学)

〈論文〉

- ・Kohji Tanaka, Sawa Saito, and Akira Yokkaichi 「Structural Characteristics of Reading Ability in Japanese Children and Youth With Hearing Impairments: Linguistic Competence」, 『The Japanese journal of special education』(The Japanese Association of Special Education) Vol. 44, No. 6, Mar. 2007, pp. 473-492.
- ・田中耕司・斎藤佐和「聴覚障害児の書記表現力の指導に関する調査」, 『特殊教育学研究』(日本特殊教育学会) 第45巻, 第3号, 2007年9月, pp. 137-148.

〈学会発表〉

- ・田中耕司・斎藤佐和・四日市章「聴覚障害児の書記表現力の評価基準作成」, 日本特殊教育学会第45回大会, 神戸国際会議場, 2007年9月.

劉 晏君(人文学科教育学)

〈論文〉

- ・「日本統治時代の台湾の同化政策における『説話』の機能—1913(大正2)年の『公学校用国民読本』に着目して—」『人文学科教育研究』(人文学科教育学会) 第34号, 2007年8月, pp. 49-64.

伊藤伸也(数学教育学)

〈論文〉

- ・「H. フロイデンタールの数学観とその背景—『人間の活動としての数学』の検討を中心に—」, 『筑波数学教育研究』(筑波大学数学教育研究室), 26, 2007. 3.

〈学会発表〉

※“Reconsidering the Concept of “Mathematisation” in the OECD/PISA Mathematics Framework,” The 31st Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education, Seoul National University, Seoul, Korea, 2007. 7. 13.

- ・『「現実の数学化をなぜ教授すべきなのか」—H. フロイデンタルの数学教授論の分析—』, 日本科学教育学会 第31回年会, 北海道大学, 2007. 8. 19.
- ・「H. フロイデンタルの教授原理『追発明』を支える人間観」, 日本教育方法学会 第43回大会, 京都大学, 2007. 9. 29.

〈その他〉

- ・「H. フロイデンタルの『教授学的現象学』の働き」, 『数学教育学会 研究報告』(数学教育学会), 2007. 1, pp. 83–87.
- ・「H. フロイデンタルの数学教授論における『数学化』の意味」, 『日本科学教育学会 研究会研究報告』(日本科学教育学会), 21(6), 2007. 6, pp. 59–64.

小松孝太郎 (数学教育学)

〈論文〉

- ・「学校数学における action proof の概念規定」, 『筑波数学教育研究』(筑波大学数学教育研究室), 26号, 2007年 3 月.
- ・「平成18年度「産業社会と人間・産業理解」の実践と評価」, 『筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要』(筑波大学附属坂戸高等学校), 44号, 2007年 4 月, pp. 7–25.
- ・「学校数学における証明の機能「説明」に関する一考察：数理哲学における議論に着目して」, 『日本数学教育学会第40回数学教育論文発表会論文集』(日本数学教育学会), 2007年11月, pp. 637–642.

〈研究・調査報告書〉

- ・「オーストラリア・ヴィクトリア州の高等学校数学教育」, 研究代表者：鈴木久敏, 平成17～18年度科学研究費補助金特定領域研究(公募研究) 研究成果報告書, 『数学的思考能力向上を目的とする生徒の日常体験を生かした教育プログラムの開発』, 2007年 3 月, pp. 39–50.

〈学会発表〉

- ・「数学教育におけるテクノロジーの利用の有効性に関する一考察：オーストラリア・ヴィクトリア州の高等学校数学の実態調査をもとに」, 『日本教科教育学会第33回全国大会発表論文集』(日本教科教育学会), 横浜国立大学, 2007年10月27, 28日, pp. 25-26.

鈴木宏昭 (理科教育学)

〈学会発表〉

- ・「日本の中・高校生における“Nature of Science”の理解に関する比較研究」, 日本科学教育学会, 北海道大学, 2007年8月18日.

〈その他〉

- ・「米国初等理科における“Nature of Science”に関する研究—Harcourt社の教科書分析を中心に—」, 『科教研報』(日本科学教育学会), Vol. 21, No. 4, 2007年1月, 7-12頁.
- ・「日本の中学生における“Nature of Science”の理解に関する研究—科学知識と探究スキルの性質に関する理解に着目して—」, 『科教研報』(日本科学教育学会), Vol. 21, No. 5, 2007年2月, 117-120頁.
- ・「理科カリキュラムにおける“Nature of Science”の内容構成に関する研究 —『観察』と『推論』の内容構成を事例に一」, 『科教研報』(日本科学教育学会), Vol. 21, No. 6, 2007年6月, 21-26頁.

上原千恵 (学校保健学)

〈学会発表〉

- ※「Relative importance of self-esteem and normative consciousness related to appearance of risk behaviors among Japanese adolescents」, The 19th International Union for Health Promotion and Education World Conference, Vancouver, 2007年6月12日.
- ・「我が国の青少年の危険行動に関わるセルフエスティームおよび規範意識の相対的な影響」, 第54回日本学校保健学会, 市川市, 2007年9月16日.